

環境に関する社会貢献活動



環境配慮活動の紹介



東海国立大学機構の「環境安全衛生」に関する取組 ～「統括本部」の設置～



東海国立大学機構では、環境安全衛生に関する業務の統括や情報共有を促進するため、「環境安全衛生統括本部」を設置し、大学間で環境安全衛生に関するリスク情報や教育教材の共有等の取組を開始しました。

特に2020年度は、東海国立大学機構としての「環境安全衛生に関する基本方針」を制定し、環境の保全と人の安全に配慮した社会の持続的な発展への寄与、人々及び社会の安全と快適さに害を及ぼすリスクの正しい理解、そしてリスク軽減に向けて取るべき具体的な行動を基本方針として決めました。また、大学間における実務面の連携をより密にするために、双方の大学の実務者における連絡会を設置し、事故情報やその他安全管理に関する情報交換を開始しています。今後は環境安全教育の共通化やリスク情報の共有などの連携を一層推進し、相互の大学の環境安全衛生の管理レベルの向上に努めていきたいと思ひます。



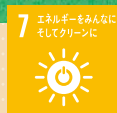
「環境安全衛生アライアンス」における取組の充実 ～東海北陸地区国立大学等の環境安全衛生に関する連携～



東海北陸地区の大学等では、環境安全管理に関する共通の課題を改善するために、2018年度に「東海北陸地区国立大学等環境安全衛生アライアンス」を設立しました。各大学等では環境安全衛生に関する様々な課題が上がっています。その課題は他の大学等にも共通する場合も多く、アライアンスとして連携することで、それぞれの機関が持つ力を出し合うことで高い活動水準を維持することができると考えています。アライアンスの活動として、課題を共有し、意見交換を行う会合の開催や、安全に関するセミナーの主催等を行っています。2020年度はコロナ禍の中、オンラインでの意見交換を実施し、また、このアライアンス専用のホームページを作成し、各大学の環境、安全に関する教材、パンフレット等の資料等の共有を開始しました。東海北陸地区は日本の交通の要に当たり、この地区でのアライアンスによる共有・協力の成功は全国規模へと発展し、さらに世界的規模で同様の活動が活発化していくきっかけになると信じ、今後も活動を続けていきます。



グローバル化のためのSDGs勉強会



岐阜大学では、ジョイントディグリーを共同実施するインド工科大学グワハティ校およびマレーシア国民大学が所在する北東インドやマレーシアと、事業展開などの連携をする際に大切なSDGs（持続可能な開発目標）の項目について、学内外の専門家（大学、研究所、シンクタンク、企業など）を講師として招き、岐阜大学の学生、教員が地域の方々と共に学び、議論する場として「グローバル化のためのSDGs勉強会」を開催しています。2020年度は5回開催し、2021年度も引き続き開催します。

▶ 岐阜大学グローバル推進機構

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/region/sdgs/session/>





「夏休みスペシャル減災教室at home アクセス:ご自宅から0分」をWeb 開催



名古屋大学減災館恒例の夏休みスペシャル減災教室として、ホームページ上でバーチャル夏休みスペシャル減災教室を開催しました。身近なもので建物の揺れの仕組みを学んでもらうため、福和減災連携研究センター長による「プリンで地震の実験!」「ストローハウスを作ってみよう!」と題した動画をはじめ、「河川地形実験模型Emriver を使って流れる水のはたらきを学ぶ」「もしもダンパーがなかったら?」「BiCURI」「ピノキオぶるる」「多段ぶるる」等の動画を掲載しました。

また、双六ゲームをしながら安政地震の被害の様子を学ぶ「かわらばんすごろく」、地震に強い建物の特徴を理解できる工作教材「紙ぶるる」他、ダウンロードアイテムも提供し、夏休みの自由研究などに寄与しました。

名古屋大学減災連携研究センター
http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/?page_id=22



全学一斉防災訓練を実施



2020年度の全学一斉防災訓練を、名古屋大学全域で実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響による制約のあるなか、将来につながる新たな試みも行われました。大規模地震の発生を想定した緊急地震速報の非常一斉放送に続き、それぞれの立場で安全確保行動、安否確認システムの訓練を実施しました。



全学災害対策本部では、臨時本部を構成し、オンラインによる被害状況報告や対応指示の訓練が、岐阜大学と連携して行われました。

自宅学習やテレワーク対応、災害時の安全確保とその後の復旧活動、東海国立大学機構としての対応など、新たな課題に継続して取り組み、今後の訓練に反映させて、防災力向上につなげていきます。



クリーンキャンパスの実施



岐阜大学、名古屋大学ともに、環境に配慮した大学づくりの取組の1つとして、毎年2回「クリーンキャンパス」を実施しています。

当日は、役員をはじめ教職員および学生が参加し、キャンパス内及び近隣地域のごみ拾いや、除草作業を行います。



46 ENVIRONMENTAL REPORT 2021



岐阜大学の学生参加による 内部環境監査の年間活動

9月1日

1 内部環境監査員養成研修会

外部から講師を招き、ISO14001（環境マネジメントシステム）の規格要求事項、内部環境監査の実施手順や実施における留意点などについて研修を受け、演習を通して内部監査における着眼点や不適合事項の特定などについて教職員とともに学びました。



9月7～9日



2 内部環境監査

監査チームごとに事前に打ち合わせを行い、監査チェックリストを作成し、担当部局を監査しました。監査終了後には、内部環境監査報告書に意見をまとめました。

11月19日

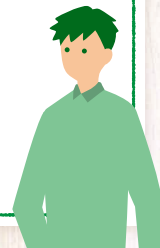
3 内部環境監査員 養成研修修了証書授与式

学長より研修を修了した20名の学生一人ひとりに修了証書が授与されました。授与式後の意見交換会で、学生から「内部環境監査に参加して、環境への興味が深まったので引き続き監査員として活動していきたい」と意気込みが語られ、森脇学長は「環境活動は学生、教職員が一体となって取り組む必要があり、学生の参画は岐阜大学の強み。今後もこの活動を継続して行ってほしい」とエールを送りました。



大学の環境活動について
詳しく知ることができ、
大変勉強になった

環境活動の取組を
後輩へ引き継いでいきたい





十六銀行との連携活動

12月15日(火)



企業との連携

2012年度に株式会社十六銀行との間で「岐阜大学と十六銀行との環境保全における連携に関する覚書」を締結し、さまざまな環境保全活動を展開しています。

エコ活動啓発ポスター

エコ活動啓発ポスターを岐阜大学教育学部附属小中学校の児童生徒に募集しました。多数の応募作品の中から、優秀賞3作品、特別賞4作品、十六銀行賞1作品を決定し、学長室にて表彰式を行いました。

作品は、岐阜大学図書館及び十六銀行本店などに展示され、多くの方にご覧いただきました。このような活動を通し、地球環境問題に対する意識の啓発に努めています。



第10回 優秀賞受賞作



林 怜永さん (4年)



澤 可奈子さん (7年)



田中 梨陽さん (2年)



環境ユニバーシティフォーラム

11月7日(木)

11月8日(金)



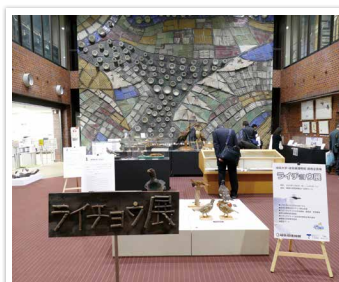
岐阜大学では毎年、11月を環境月間とし、環境活動を展開しており、その一つとして、「環境ユニバーシティフォーラム」を開催しています。

2020年度は、岐阜県等と『第19回ライチョウ会議ぎふ大会』を共同開催し、学内外から2日間で延べ503名の参加がありました。

1日目の「ライチョウシンポジウム」では、信州大学の中村浩志名誉教授による「ライチョウの生態と未来」についての基調講演、2日目の「ライチョウフォーラム」では、生息地や動物園での取組、野生復帰に向けた研究などについて、専門家による講演が行われました。

また、11月4日(水)～12月1日(火)まで岐阜大学図書館にて企画展「ライチョウ展」も開催しました。

参加者からは「様々な話題が提供され、とても参考になった」「高山帯に生きている動植物が地球温暖化によって生息生育地がなくなってしまうことに、私たち人間がどのような対策ができるのか考えていきたい」などの感想が寄せられました。



第19回
ライチョウ会議 ぎふ大会
～ 県の鳥「ライチョウ」の現状と保全 新たなステージへ～

2020年
要事前申込
参加無料
(先着順)

Day1 11/7(土)
ライチョウシンポジウム
ライチョウの生態と未来の取り組みなど
基調から最新のシンポジウム

時間 13:00～16:30
会場 岐阜大学 講堂
定員 200名(各日)
申し込み方法 大会ホームページをご覧ください
申込期間 10月7日(火)から10月26日(月)まで
申込方法 大会ホームページ
E-mail: c11265@ref.gifu.jp
E-mail: gifu@ref.gifu.jp

Day2 11/8(日)
ライチョウフォーラム
ライチョウの最新研究を知ることが
できるライチョウ専門家に
対して質疑応答の場

時間 9:40～16:00
会場 岐阜大学 図書館
定員 200名(各日)
申し込み方法 大会ホームページ
E-mail: gifu@ref.gifu.jp
E-mail: gifu@ref.gifu.jp

企画展「ライチョウ展」
ライチョウの生態と未来の取り組みなど
に関する展示
開催期間 11月4日(水)～12月1日(火)
会場 岐阜大学 図書館
定員 200名(各日)
申し込み方法 大会ホームページ
E-mail: gifu@ref.gifu.jp
E-mail: gifu@ref.gifu.jp



オンライン公開講座

「地(知)の拠点×SDGs地域課題解決に向けた大学の挑戦」

12月12日(土)



岡山大地域総合研究センターの岩淵泰准教授から、岡山大で行われている留学生や学生と地域との交流に基づいた、ローカルからグローバルへの発展・交流地域の活性化・活動の中で生まれた地域と学生の絆について、林徹也リコージャパン(株)岐阜支社長からリコージャパン岐阜支社の行う働き方改革、環境負荷の低い社屋、それを通じたSDGsへのつながり、社員のモチベーションアップについてご講演いただきました。

総合討論ではパネリストとして名古屋大学西澤泰彦環境学研究科長にもご参加いただき、学生も加わってパネルディスカッションを行いました。SDGsに対してどのように取り組むかというところが最終論点となり、SDGsに対して取り組むというより、普段の活動をSDGsに落とし込む事が重要という結論に達しました。



岐阜大学
応用生物科学部 4年
田崎 浩

何か新しく取り組むのではなく、普段の行動からSDGsを意識してみる。そのように行動する人が増えていくことがSDGsの達成につながるのではないかと思います。

最近、SDGsという言葉は本当に色んな所で見るができます。ただ、SDGsだと思わずに、岩淵先生がおっしゃっていた「自分事」にする、そうやって意識していく必要があると考えます。



私たちの岐阜市、これからの20年を考える
～SDGs未来都市岐阜市～

12月18日(金)



岐阜市企画部未来創造研究室と岐阜大学地域協学センターで共催したぎふフューチャーセンターに岐阜大学学生、地域住民等30人が参加し活発な意見交換が行われました。(会場:みんなの森ぎふメディアコスモス) 新型コロナウイルスの流行に伴い、暮らし方の変革、デジタルの加速とリアルとの融合など、これまでとは異なる生活様式への移行を余儀なくされ、さらに今後もこの新しい生活様式が続くと考えられています。そこで、20年後の岐阜市を見据えて、多様なワークスタイル・ライフスタイルにあった、「住みやすい、暮らしやすい、魅力的なまち」について考えました。

提案された岐阜市の将来像

- 「とんがった夢をカタチにする岐阜市」
- 「骨を埋めたい岐阜市」
- 「大人も子供もワクワクできるクリエイティブな岐阜市」
- 「チョイスできる岐阜市」
- 「人と人がつながる温かい町岐阜市～ずっと住み続けたい岐阜市～」



今後の展開

提示された意見は、今後、岐阜市の取り組みや施策に活用される予定です。(柴橋正直岐阜市長の講評より)

担当者の感想(岐阜市・未来創造研究室)

皆さんから岐阜市の未来のまちづくりに関する尖ったアイデアをたくさん提案してもらい、私たちもワクワクしました。今後も皆さんと一緒にSDGsの取り組みをさらに進めていきたいです。



参加を通じて、市の課題とSDGsの目標が多く重なっていると気付く、SDGsは市や私たちの生活にも関係する身近な話であると実感しました。市や暮らしのことを考える際には、同時にSDGsにも目を向けていくつもりです。



岐阜大学
地域科学部 4年
田中 敦



感染防御力の高いオリジナルマスク 『θ』『タートル』の開発 ウイルス除去効果の高い環境保全型樹脂製マスク

✿ 立体マスク『θ』の開発 ✿

新型コロナウイルスのパンデミックに伴う最初の緊急事態宣言が出された2020年春頃、全国的にマスクが不足する事態に陥りました。そこで、名古屋大学、大学発ベンチャー（株式会社フレンドマイクロブ）、大手企業（三井化学株式会社）という枠組みで樹脂製立体マスクの開発に着手し、2020年夏には新型マスクシート『θ』を発売するに至りました。クラウドファンディングでは、目標応援額の1000%以上を達成し、社会の期待に応えることができました。



名古屋大学工学部
工学研究科 教授
ほり かつとし
堀 克敏

✿ インナーマスク『タートル』の開発 ✿

秋頃にはマスク不足は解消され、従来の使い捨て不織布マスクに加え様々なタイプのマスクが市場に出回るようになりました。マスクの日常的着用を余儀なくされ、着け心地・快適性に加えて、デザインなどのファッション性も重視されるようになりました。その一方で、ウイルスを防ぐ機能について明確でないか、ほとんど効果の期待できないマスクが市場に溢れているのも実情です。この状況を鑑み、堀教授らは、ウイルス除去機能とファッション性を両立させ、しかも着け心地も快適な新型マスク2号『タートル』を開発し、2021年春より市場販売を開始しました。タートルは好きなマスクの下に装着することでウイルス除去効果を高めるインナータイプのマスクです。



『タートル』（左）とその上から着用するお好きなマスクの例（右）。タートルをインナーマスクとして着用した時の様子（中）。

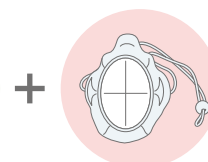
✿ 開発したマスクの特徴と意義 ✿

マスクに期待される機能は、ウイルスをブロックすることにより感染リスクを低減させることです。不織布自体は95%以上のウイルス除去率であっても、マスクの形状にすると、顔との間に生じる隙間のため除去率が半減してしまうことを、マネキンを使用した実験により示しました。そこで、顔にできる限りフィットするように設計した樹脂製マスク本体と不織布フィルター装着部から成る立体マスクを開発しました。不織布フィルターのみを毎日交換し、それ以外の樹脂部については洗って再使用します。樹脂部は生分解性プラスチック製であり、廃棄物となる不織布も、通常の使い捨てマスクの使用量の1/10程度であり、環境にも配慮されたマスクであると言えます。

▶ マスクの詳細を紹介したサイト
<https://friendmicrobe.co.jp/>



お気に入りのマスク



タートル



学内緑地を活用した 環境保全と自然教育



名古屋大学博物館では、環境保全に関わる研究活動や自然教育を多数行っています。この中から、博物館の管理下で「生物多様性の生きた展示」として一般公開している野外観察園での取組を紹介します。

✿ 名古屋大学野外観察園とは ✿

名古屋大学博物館野外観察園は、東山地区の南部に位置する4,320㎡の緑地です。教養部生物学教室の実験圃場(研究・教育用の植物が栽培する場所)として1963年に造成されました。2003年度からは、環境保全と自然教育の一環で、博物館が管理・運営を行っています。



左・西田 佐知子 准教授 右・梅村 綾子 研究員

✿ 野外観察園を活用した 環境保全の取り組み ✿

野外観察園の西側はかつて、瓦礫の合間に雑草が生える状態で放置されていました。また、園の敷地は一時、駐車場などへの変更が検討されたこともあったと聞いています。しかし、約30年前、当時の教員たちによりドングリなどを植えるなどして整備され、現在では、約10種のブナ科樹木を含む雑木林となっており、博物館の管理下で「生きた展示」として存続されることとなりました。現在、園には温室内の約200種を含む、およそ800種の植物が生育しています。これらの植物が昆虫やキツツキなどを招き、様々な生物の棲家として機能しています。

また、希少な動植物の保全にも取り組んでいます。例えば、湿地などの消滅により数の減少が心配されているハッチョウトンボの生息地としての保全や、絶滅危惧種にあたるシャジクモ類植物の栽培、希少植物の域外保全(現地以外に移植する形での保存)を試みています。さらに、外来種と在来種植物の相互作用の研究など、園の様々な植物を使い、生物多様性保全に関わる研究を行っています。



野外観察園で生息する、世界最小級のハッチョウトンボ(体長約1.5cm)

✿ 野外観察園を活用した自然教育 —野外観察園見学会・顕微鏡観察会— ✿

野外観察園は、学内の一般公開施設として、自然教育に広く活用されています。また、毎年春と秋に、「野外観察園見学会・顕微鏡観察会」を開催しています。当会では、園内を講師とともに散策しながら、季節の植物、そして植物の虫や鳥との共生や植物の環境への適応力などを学び合うほか、植物のミクロの世界を電子顕微鏡で観察するなど、動植物の賢く生きる姿を語り合う機会としています。2020年度はコロナ禍の開催として、秋のみ、かつ人数制限のもと実施しましたが、当会は、引き続き工夫を凝らして開催していく予定です。皆さんも、是非私たちと共に、環境保全を考えていきましょう。



野外観察園見学会の様子



野外観察園で栽培中のシャジクモ類植物

▶ 名古屋大学博物館ホームページ
<http://www.num.nagoya-u.ac.jp>





岐阜大学環境サークル G-amet

ばんがいけ 鵜ヶ池自然再生プロジェクト2020



2020年から本格始動した学生主体の生物多様性保全・自然再生プロジェクトです。半世紀近く放置され、自然環境の劣化と生物多様性の低下が進んだ「鵜ヶ池」に名前の由来となった水鳥「バン」が戻ってくるような環境づくりを目指して、学内外の専門家の方々のご協力のもと科学的知見や順応的管理に基づいた様々な取組を行なっています。

1980年代の鵜ヶ池は豊かな水生植物相を有していたことが文献から確認されています。また、バンは餌や巣材として水生植物を利用することから、これらを底泥中に眠る種子集団（土壌シードバンク）を用いて復活・復元することを目指しています。2020年の調査では絶滅危惧種を含む複数種の種子が確認されました。また、種子の発芽能力がなかった場合の対応策の1つとして、「周辺水域からの移入」に向けた調査も実施しています。

2019年からの取組が評価され、「サステナブルキャンパス賞2020 学生活動部門」を受賞しました。（P.13参照）「全国の学生主体の環境活動のロールモデル」として高い評価をいただきました。



▶ 鵜ヶ池自然再生プロジェクト
E-mail: bangaikepond@gmail.com

@Bangaikae_Pond

キャンドルナイトリレー in岐阜

キャンドルナイトリレー in岐阜※1を柳ヶ瀬商店街（岐阜市）で開催しました。「環境問題を身近に感じてもらうきっかけをつくりたい」という思いから、廃油・廃材から作ったキャンドルを灯し、参加してくださった地域の方々と共に「環境問題」について考えました。

「日常生活の中で私たちに何ができるか」などをテーマにしたディスカッションやG-ametのメンバーが取り組んでいること、環境問題に対する考えなどを紹介したことで、環境問題に対するイメージを少しでも変えることができたのではないかと感じました。私たち学生にとっても、さまざまな立場や世代の環境問題に対する考え方を聞いた貴重な機会となりました。「わたしたちにできることからあたりまえに」という思いをもとに、今後もこのようなイベントづくりに取り組んでいきたいです。

※1 キャンドルナイトリレー in岐阜
東京オリンピック2020公認プログラム「キャンドルナイトリレー」の一部。9つの学生団体が聖火リレーに合わせて全国10会場で行うキャンドルナイトイベントの第一会場目として開催しました。

▶ <https://www.candle2020.com/gifu>



NHKクイズ番組 「未来王2030」へ出演

2021年2月にNHK総合で放送されたクイズ番組「未来王2030」にG-ametから6名が出演しました。バーチャル空間を舞台にアバターとして登場し、環境問題やSDGsをテーマにしたクイズ（出題者：QuizKnock）に挑戦しました。

▶ 岐阜大学環境サークル G-amet
URL: <http://g-amet.mods.jp>
E-mail: g_amet@gifu-u.ac.jp

@Gamet_Gifu





岐阜大学ツキノワグマ研究会



大学祭の屋外露店

岐阜大学ツキノワグマ研究会（以下、クマ研）では、岐阜県内のクマの生態を調べるべく、本巣市や下呂市にある演習林に足を踏み入れクマの痕跡を採取し、定例会で情報を共有し蓄積しています。調査地からは主に、クマが樹皮を剥いだ跡（クマハギ）の写真やその場所の地図、クマの糞、無人カメラで撮影した映像といった情報を持ち帰ります。クマが冬眠から目覚め、木々が芽吹いていない春先のわずかな期間にのみ、白川村にある調査地点で望遠鏡を使ったクマの直接観察を行っています。

部員は20名ほどで、毎週末に4、5人のグループで山に入ります。クマの痕跡採取以外にもヘビ、トカゲ、シカ、カモシカ、ニホンザル、イノシシなど多様な動物を観て楽しんでいます。クマがよく実を食べることで知られる、コナラ、ミズナラ、ウワミズザクラなどの植物の同定も重要です。

大学祭では例年、露店で吹き矢体験とサーターアングギーの販売を行い、屋内ブースでは演習林で撮影したクマの映像を流したりポスター発表をしたりして、クマについての啓発を行っています。来ていただいた方には、クマや屋内展示に関するアンケートをお願いしています。人の社会とクマとの^{あつれき}軋轢を減らすためにはどうすればいいのか、クマの個体数管理や狩猟についても考えていただき、住民、ハンター、行政、愛護団体等、ステークホルダーの調整に役立てたい考えです。

クマが冬眠している時期にはクマ研もお休みです。なんてわけではなく、その年に採取したクマ糞の内容物を分析し、クマがどの時期に何を食べているのかを明らかにします。木の実が多いですが、昆虫の足や動物の毛

が出ることもあります。この糞分析がクマ研の主要な研究成果になります。それに加えて、クマ関連の論文や岐阜県が公表しているクマのデータなども合わせて知を統合し、クマ研としての見解を固めていくのが冬季の活動になります。



遠くの山肌にいるクマの観察

岐阜大クマ研は、岩手大学のツキノワグマ研究会と北海道大学のヒグマ研究グループとも交流があり、最近ではZoom会議で情報を共有しています。みんな同じ興味を持っていながら知識や感覚は多様で、刺激し合える間柄です。コロナ禍前には岩手のカモシカ調査、下北のサル調査、屋久島のサル調査、日本哺乳類学会などで顔を合わせることも多くありました。昨年度は直接交流することができませんでしたが、今後も交流を続けていきたいです。



クマ糞の内容物調査

▶ 岐阜大学ツキノワグマ研究会HP
<https://gidaitukinowaguma.amebaownd.com/>



@Gidai_Kumaken



名古屋大学環境サークル Song of Earth

私たちは「学生の視点からさまざまな環境問題を考え、実践すること」を目標に活動を行っています。構内外での美化活動をはじめ、近隣の小学生に紙パックを使った工作を通してリサイクルについて考えてもらうエコ工作や、花を育成してキャンパスを彩る花いっぱい運動、卒業生から家具・家電を譲り受けて新入生に配布する下宿用品リユース市など幅広く活動しています。また、名古屋市の『湧き水モニタリング』にて八事裏山エリアを担当しており、年4回水質調査を実施して結果を市に報告しています。昨年は『東京×東海環境サークル交流会』に参加し他大学の環境サークルと意見交換を行いました。今後は、リユース市のオンライン開催も検討しつつ、日々変化する社会に適した環境活動を模索し取り組んでいきます。



▶ 環境サークル Song of Earth HP
<https://songofearth.nagoya>



▶ 名古屋大学下宿用品リユース市HP
<https://www.reuse-nagoya.org/>



@reuse_market



学生サークル MOKKO

学生サークル MOKKO は、愛知県内の大学で林業・林産学や建築学を学ぶ学生を中心に活動しています。具体的な活動としては、学童保育所での木材を使った図書スペースの設計、都市部における木質実装活動(DIY)、都市部でのイベントへの出展などがあります。昨年度の夏から開始した、名古屋市内の学童保育所での活動では、大学生と学童出身の中学生が中心となり、図書スペースの設計を行っています。学童関係者の方々、大学の先生方、設計士や林業・林産業従事者の方にもご協力いただき、さまざまな立場の方とのつながりの中で学ぶことが多く、“共育”が生まれている活動です。今後は森林や木材、建築技術、低炭素社会の実現に関する自主的なセミナーやツアー、木造化都市構想の作成などさらに活動の幅を広げ、これからも「木のファンを増やそう!」を合言葉に、森林と都市部をつなぐ活動を行っていきたいと思っています。



▶ <https://mokko-timberstudentcouncil.jimdofree.com/>



<https://www.facebook.com/profile.php?id=100025434796132>

@timberstidentc1 @mokko_toukai



名大祭実行委員会



2021年の第62回名大祭は、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインで開催することに決定いたしました。第61回名大祭の中止に続き、対面での開催を実現することができず残念でありましたが、オンラインでの名大祭を皆様にお楽しみいただけたと思っています。

名大祭実行委員会では、環境対策部を設置し、例年古本の回収・販売やペットボトルキャップの分別回収等を行っており、環境にも人にもやさしい名大祭を目指しています。対面での開催は断念せざるを得なくなりましたが、オンライン開催でも実現可能な環境対策を模索するとともに、次回以降の名大祭では名古屋大学およびその周辺での環境に配慮した名大祭を開催できるよう尽力していきます。これからも皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いします。

@meidaisai_NU

@meidaisai_nstagram



生物多様性とSDGsユース会議

2月6日(土)



2021年2月6日に愛知県主催で、「生物多様性とSDGsユース会議」が開催されました。対面ではユース会議の準備組織である学生委員会のメンバーを中心に、オンラインでは生物多様性に関するユース組織のChange Our Next Decadeのメンバーを中心に会議を行いました。「日常生活でできる持続可能な活動を見える化し、広めるには?」



「地域の活性化と生物多様性保全を同時解決する取組を考える」「生物多様性や自然について学べるまちづくり」の3テーマについて分かれて議論

し、取組やアイデアを発表しました。次世代を担うユース世代の私達が互いに議論の中で、これからの生物多様性保全とSDGsの達成について自分たちが主体的に活動することの大切さや人とのつながりから生まれる可能性について深く考える機会となりました。今後もユース会議で得られたアイデアやつながりを大事に多世代とさまざまなことに取り組んでいきたいと思います。



生物多様性 あいち学生プロジェクト GAIA



佐久島での海岸清掃とマイクロプラスチック調査

GAIA (ガイア) は、愛知県内の生物多様性保全活動に取り組む学生を中心とした組織で、『海・森・まち』をテーマに、高校生から社会人まで幅広い年代のユースが活動しています。

これまで企業や団体と連携し、県内の様々なフィールドで活動を行ってきました。海岸清掃を通して海洋汚染の深刻さを認識したり、植樹活動を通して持続可能な森づくりを学んだりといった実践的な活動に加え、関係者や専門の方から詳しいお話を聞くことで、これまで環境活動の経験や知識がない人も、楽しみながら生物多様性について理解を深めています。また、生物多様性と地域活性化を結びつけるような企画を自ら考えたり、保全活動を広く知ってもらうための情報発信にも力を入れており、ユースの強みを生かした活動を行っています。今後もより多くのユースを巻き込み、オール愛知で生物多様性保全の輪を広げていくことを目指しています。



@gaia_aichi



@gaia_aichi

生物多様性 あいち学生プロジェクト 愛知県HP
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/2019gakusei.html>



名古屋大学の学生が、SDGs IDEAForum2020で特別賞を受賞

2月28日(日)



2021年2月28日に行われた名古屋市と名古屋市立大学の共同主催プロジェクト「SDGs IDEAコンテスト」にて、名古屋大学から参加した「Mei-change」が特別賞を受賞しました。Mei-changeは6名の1年生(当時)で構成されたチームで、「お皿×アプリ」で飲食店での食べ残しを減らすプロジェクトを提案しました。

メンバーの1人、文学部2年の田中比香里さんは、「高校生の時から、スーパーグローバルハイスクール (SGH) のプロジェクトがきっかけで、SDGsに興味を持っていました。このコンテストを知り、ゼミ形式の講義「基礎セミナー」で知り合ったメンバーに声を掛けただころ、5人の仲間が集まりました。食べ残しの解決を通して、皆にフードロスへの意識を持って欲しいという思いを込めました。」と話してくれました。今後もMei-changeのメンバーで新しいことに挑戦するため、ミーティングを重ねているそうです。

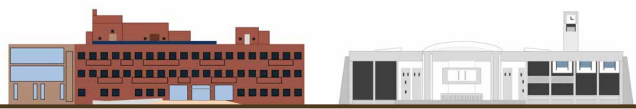


SDGsIDEAForum2020 公式HP
<https://sdgs-ideaforum.com/>





学生対談



環境やSDGsに関する活動に取り組む岐阜大学と名古屋大学の学生11名が、オンライン対談を行いました。所属するサークルなどの活動をお互いに紹介した後、学生の環境活動に関する課題や、学生から見たキャンパスの環境課題など意見交換を行いました。(2021年8月30日, オンライン開催)



中藤 駿
岐阜大学 応用生物科学部4年



豊川 雛衣
岐阜大学 応用生物科学部2年



片山 義章
岐阜大学 工学部1年

岐阜大学環境サークル G-amet

活動理念「わたしたちにできることからあたりに」のもと、「廃棄物・資源循環」「緑化・景観管理」「生物多様性保全」「ESD・環境教育」の4部門で活動を展開しています。教職員や他大学、地域社会とも連携して立場や専門分野の枠を超えた取組を行なっています。



高須 啓太
岐阜大学 地域科学部2年



金原 慎逸
岐阜大学 工学部1年

岐阜大学生協学生委員会(GI)

GIは「より良い大学生活の実現」を目指して様々な活動しており、その一環で環境に関する活動も行っています。今年はリ・リパックというリサイクル容器の回収に力を入れており、リ・リパックを用いた投票企画を行うことで周知を行いました!



川野 純也
岐阜大学 地域科学部2年



辻 峻太
岐阜大学 地域科学部2年

岐阜大学ESDクオリア

ESDクオリアは「持続可能な開発のための教育」という考えを基に、環境保全活動や環境教育活動を行っています。学外での活動がメインで、湿地や里山の保全をしたり学生を対象とした環境活動の企画をしたりしています。



林 愛子
名古屋大学 文学部4年



王 愛里
名古屋大学 理学部3年

名古屋大学環境サークル Song of Earth (SOE)

学生ができる事はある程度限られており、またその制限もコロナ禍で厳しくなっていますが、私達はできる事を続ける事を大事にしたいと考えています。今後は色々な団体とも協力して活動したいです。



佐々木 あみ
名古屋大学 法学部4年



中山 みどり
名古屋大学 経済学部4年

SDGs IDEA FORUM2020 出場メンバー

SDGs IDEA FORUMは名古屋市が主催し、SDGsの達成に向けて地域課題の解決を目指すアイデアを大学生から募るコンテストです。私たちは4つの課題のうち「名古屋から食品ロスをなくそう」に挑戦しました。



学生の環境活動に関する課題

中藤：コロナ禍でよく耳にするようになった課題は、やはりコロナ禍での引き継ぎや継続的な活動に対する問題です。皆さんの団体ではいかがでしょうか。

林：コロナ禍でメンバーのほとんどがオンラインでしか話したことがなく、形式的な引き継ぎはできても責任を他人に押し付けてしまいがちになってしまうことを心配しています。

高須：GIでは企画の背景や想い、目的・目標を常に大切に活動しており、時にはその活動を始めたきっかけに立ち返るようにしています。想いなどを書き残しておくことで後輩たちも熱心に取り組んでいくことができるのではないかと思います。

王：コロナ禍はもちろん、活動人数が少ないことは特に問題に感じています。SOEで毎年取り組んでいるリユース市(現在はコロナ禍により中止)について、リユース市のホームページでボランティアも募集しているんですが、なかなか集まらず苦勞しています。

佐々木：ホームページやSNSなど団体のメディアで発信しても、そういった情報を探して見つけてくれる人じゃないと来てくれないのかと思います。こちらから情報が目に見えるような形で提供するのが良いと思います。例えば、学部のメーリングリストでの配信を依頼したり、環境活動に興味がある学生が受講しているような講義に依頼をして宣伝させてもらうなどの工夫をしていました。

金原：僕が環境活動を始めたのは、大学の初年次セミナーという講義で環境活動についての紹介があって興味を持ったのがきっかけです。大学生になって勉強だけでなくいろいろなことを経験したいという想いがあったのもきっかけの1つです。

辻：僕は大学でフィールドワークに取り組みたいと思っていてESDクオリアに入ることを決めました。新入生に環境活動の紹介をするときに、外での活動をアピールすると良いのかなと思いました。

片山：僕がG-ametに入ったのは、コロナ禍で屋内を利用するサーク

ルがなかなか活動できない中でもフィールドを利用して活発に活動していたからです。

王 : SOEではコロナ禍に対応して、リユース市も一部オンライン化を検討していて、感染対策の上での会場確保や広報の方法なども大学との連携が重要になってくると思います。

豊川 : 大学との連携という点では、G-ametはすべての活動が教員や職員の方々との協働で成り立っていると思っています。古本市では先生の方から連絡をくださることもありますし、鶴ヶ池の自然再生プロジェクトはこれまで30以上の団体や個人（学内外の専門家や職員）のご協力をいただいております、とてもありがたく思っています。

学生から見た大学(キャンパス)が抱える環境課題

岐阜大学

- ゴミの分別・回収が不十分(分別設備、分別意識)
- 粗大ゴミ(放置自転車など)の不法投棄
- リ・リパックの回収率低迷
- 過剰な紙利用
→印刷して提出するレポート、講義資料の印刷
- 正門や大学構内の交通問題(自転車や歩行者との接触)
- 生垣(植栽)の管理が行き届いてない
- ポイ捨て(正門前のタバコの吸い殻)

名古屋大学

- プラスチック包装の分別ができない
- ポイ捨て(特にペットボトルや吸い殻)
- リ・リパックのリサイクル回収が不便
- 人工池が放置されているなど環境整備が行き届いていない
- ウォーターサーバーが無い
→設置されれば、マイボトルの使用が進み、ペットボトルの消費量削減が期待できるのではないか。
- 過度な設定温度の冷房運転

今後の環境活動の抱負

中藤 : ぜひ今後の環境活動の抱負をお願いします。

豊川 : これからは対面でなくてもできるコロナ禍に合った新たな取組を1年生と一緒に検討していきたいです。また、名古屋大学とも協働の取組ができればいいなと思います。

片山 : まだまだ知識が少なかったのですが、いろんな方の話を聞いて学ぶことも多く、良い機会になりました。これから僕もG-ametで活動する時に様々な点に気をつけていきたいと思いました。

高須 : GIとしてG-ametさんと一緒に取り組むリ・リパック回収活動を中心に多くの組合員が気軽に環境活動に参加できるように頑張りたいと思います。

金原 : 今日は皆さんのお話を聞けて、こんな活動をしているんだと思うこともたくさんありました。これからたくさん知識を得て、積極的に環境活動に参加していきたいと思っています。

川野 : 多くの人が活動に参加できるような雰囲気を作っていきたいです。この対談のように、今後も皆さんと何かできたらと思います。

注 : 今回は様々なサークルの環境活動について聞けて良かったです。

皆さんの環境活動のアイデアをESDフオリアでも取り入れ、今後は学内での環境活動にも力をいれていきたいです。

佐々木 : 生協に意見を伝えられるというのをお聞きしたのでリ・リパックのことを伝えようと思います。学部の最後の年ですが大学内外に関わらず環境系の活動も始めたいと思っています。

中山 : 私も環境サークルのような団体に所属していませんが、対談の後半にエアコンの設定温度の話題が出て、この個室がさっき23℃だったので26℃に上げました。そういったところから始めていこうと思います。

林 : いろんな環境サークルの方々とこうやって対談できるのは、様々な知識も吸収できるし、知見も広がると毎回思っているものでこれからもどんどん積極的に参加したいなと思っています。

王 : 岐阜大学さんの団体では大学と良い関係が築けていたり、他の大人の方とも協働しているという話を伺いました。「腕より始めよ」というように、私たちが色々な人と協働して身近なところから活動を広げられるよう取り組みたいです。

環境報告書交流会 with 大阪市立大学



岐阜大学×大阪市立大学
(2020年11月)

岐阜大学、名古屋大学ともに学生が環境報告書の作成に携わっています。そのことについて、「大阪市立大学環境報告書作成プロジェクト」の皆さんが注目くださり、それぞれの大学の環境サークル(岐阜大学:G-amet、名古屋大学:Song of Earth)との交流会を行いました。

交流会では、各大学による環境配慮の取組の紹介や意見交換が行われ、どうすればキャンパスの環境に対して興味を持ってもらえるのか、という共通の課題を中心に話し合うことができました。

大阪市立大学では、企画から編集まで学生有志で取り組み、環境報告書を作成しています。それにも関わらず、多くの人を巻き込んでおり、非常に参考になる環境報告書でした。

このご縁を大切に、今後も交流を続けていきたいと思っています。



名古屋大学×大阪市立大学
(2020年10月)

